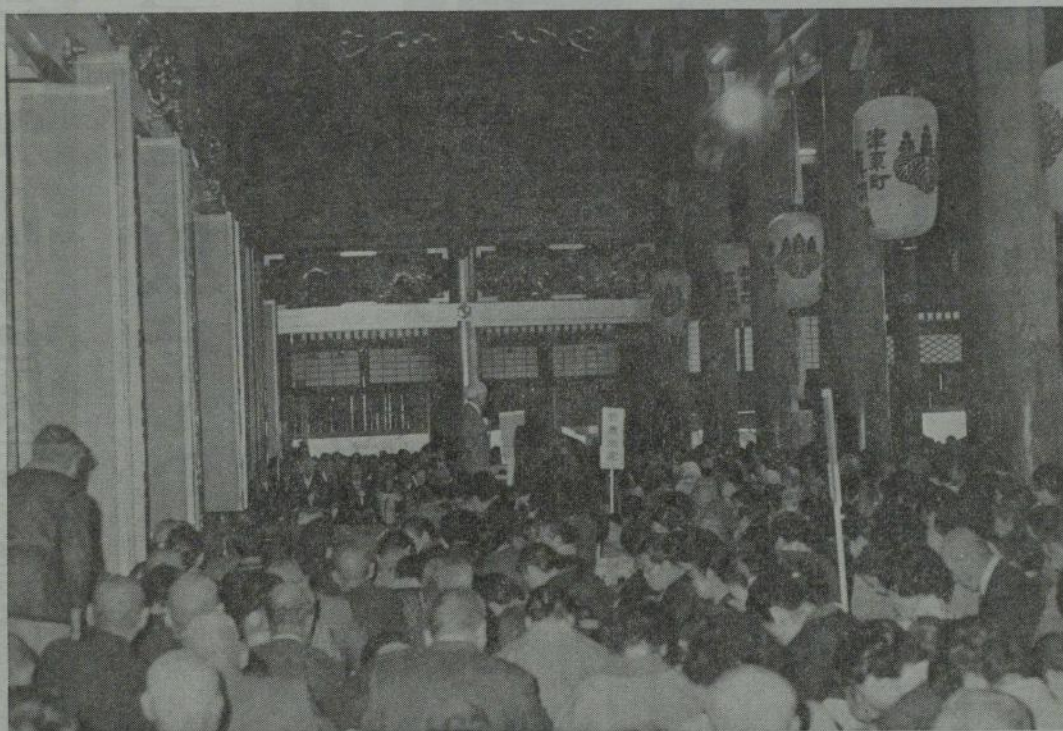


# 全 仏

NO. 218

6 / 51



やじどうするの？

さて今年も仏教徒会議が早々と  
終わった。そして一黒い法要・葬儀  
の追放」等、種々の決議がなされ  
た。ところでこれらの実践・実行  
が問題なのである。一人一人の仏  
教徒は恐らくマンネリ化していく  
仏教会の体制に歯がゆい思いをな  
していることであろう。「各県の  
檀信徒会の全国組織づくり」。素  
晴らしいことである。本当にこれ  
一つの決議でも実行に移されたら  
他の決議も少しずつではあるが、  
実が実のついでいく筈である。

今私達は昭和五十三年十月に第  
十二回世界仏教徒会議日本大会を  
実現することを決議した。その時  
まで新らしい意欲あふれる仏教会  
に育ち、各県仏の縦横の線がしっ  
かりと結ばれ、出来るならば宗派  
根性を完全にとりさり、本当の全  
一仏教運動が展開出来たらと願  
う。

(M・T)

写真は第二十四回全日本仏教徒会  
議三重大会の主会場、真宗高田派  
本山専修寺の本堂を埋めた参会者

# 第24回全日本仏教徒会議開く

## 黒い法要追放せよ

### 三重大会 大きな反響



新緑に風薫る五月十六、十七日、

第二十四回全日本仏教徒会議三重大会は、三重県津市一身田・真宗高田派本山専修寺本堂を主会場に、『仏教で強く正しく生きぬこう』のローガンのもと、全日本仏教会、三重県仏教会の主催によりひらかれた。全国より四千五百余人余が参加し、三部会ならびに宗派代表懇談会とにわかれ、それぞれ提出議案にそって混迷した社会の立て直しのために活発な討議が展開された。特に「黒い法要追放」の提案は社会的問題としてクローズアップされ、新聞・テレビなどに大々的に報道されるにいたり、仏教界の社会に対する役割の大きさを認識する意義ある大会として注目を集めた。

第一日目（五月十六日）

あいさつする大谷光暢大会総裁

参加者を歓迎する色とりどりの旗が、国鉄一身田駅から、そして近鉄高田本山駅から専修寺山門まで続く。山門前には歓迎アーチ、空には多数のアドバルーンと、地元商工会も全面的に協力する。

開会式典、總會のおこなわれる御影堂（東御堂）は、専修寺開創以来、一般大衆は入れなかった「円陣」も開放、それでも入堂できない参加者が境内を埋めつくした。

#### 式典

満堂の御影堂にて開式。花火の合図とともに松山既雲師（大会庶務部長・三重県仏）の司会により、まず小倉光昭師（大会事務局長・三重）が開会を宣言。行事鐘の音とともに、高田学園女生徒のコーラスのなか、常磐井堯祺祝下（真宗高田派法主）大導師のもとに法要をおごそかに厳修。大谷光暢大会総裁（全日本仏教会会長）の式辞につづいて、田辺哲嵐全仏理事長、常磐井堯祺大会長（三重県仏会長）が挨拶。来賓各位の祝辞、祝電披露があつて式を閉じる。

#### 記念講演

つづいて東京大教授が「生命の尊厳」と題し、現代社会に対する生命の不

安や苦悩の問題をふまえ、生命の尊厳を仏教徒がいかに強く正しく生きぬくかと熱く一時間にわたって記念講演を行ない万場の拍手を得た。

#### 総会

小峰令丸全仏組織部長の司会。加藤海晃全仏総務局長の開会の辞、鱈淵正浩飯議長（全仏事務総長）による議長・副議長への選出とすすみ、議長に神田寛雄師（本願寺派事務総長）、副議長に貝山宣泰師（神奈川県仏会長）と常磐井堯祺師（真宗高田派新門）が着席して議事に入った。竜山哲成全仏組織局長が大会幹事紹介、議事運営規則説明、議案上程、日程説明をおこない、鱈淵事務総長が全仏事務報告をして総会は終る。

#### 部会

部会ならびに宗派代表者懇談会は、次のテーマにより、議案（別掲）にそつて討議された。  
第一部会（実践）「仏教的生涯計画について」——東院——  
第二部会（檀信徒）「檀信徒会の全国的組織を強化、拡充しよう」——婦人会館第三部会（婦人）「宗教教育における婦人の役割」——本堂（西御堂）——  
宗派代表者懇談会「全一仏教運動の高揚について」——賜春館——  
第二日目（五月十七日）  
会場を高田青少年会館ホールにうつし總會ならびに閉会式を行なった。

#### 総会

開会の辞、議長挨拶のあと議事にはいり、まず各部会の報告が真溪義貫氏（第

一部会)、井谷孝夫氏(第二部会)、堤ぬい子氏(第三部会)、麻布照海師(宗派代表者懇談会)よりなされ、それぞれ報告どおり決議された。つづいて宣言決議文(別掲)の発表が、宣言決議文起草委員会・真漢義貫委員長より承認された。新聞信雄師(大会幹事長)の閉会の辞で総会を終る。

閉会式

高島広勝大会実行委員長、大石好文理事長代行の挨拶につづき、前年度開催の兵庫県仏(佐藤寛雄会長)に感謝状が贈呈された。次に鯉淵事務総長より次期開催地の発表があり、次期第二十五回大会開催地埼玉県の北之内真竜師(埼玉県仏事務局長)へ大会旗が伝達された。次期開催地を代表して大島見道師(埼玉県仏副会長)の挨拶、大会参加者代表の赤平昌導師(青森県仏会長)が挨拶のあと、高田派宗務総長・服部恭寿師の発声で万歳三唱、安藤義祐全仏事務次長の閉会の辞をもって、第二十四回全日本仏教徒会議三重大会のすべての行事を終了した。

“黒い法要追放”を満場一致で採択

第一部会

部会長 真漢義貫  
副部会長 江上秀雄  
助言者 佐伯真光

一号議案「仏教的生涯計画をたてよう」  
提案団体 全日本仏教会  
提案説明者 摩尼清之

最近三木総理によってライフ・サイクルをたてるというテーマがかかげられているが、この生涯計画は経済生活・社会生活を中心とするものである。われわれ仏教徒は仏国土という未来社会を建設するためにどうあるべきかという問題を解決しなくてはならないという問題を討議し、特に最近社会問題となっている人口問題や安楽死問題などをふまえて、仏教的生涯計画を設定できるよう研究する機関を全日本仏教会に設けることで了解、採択となった。

二号議案「文書布教奨励のため、全国寺院で発行されている寺だより・寺院通信等を毎年一回集めて、展示を行うと共に秀れたものには“全仏賞”を出すコンクールを開いてほしい」

提案団体 埼玉県仏教会  
提案説明者 北之内真竜

文書伝道を盛んにする一つの方法として、寺報等を集めてコンクールを行ってはどうかという提案があり、全仏の教化担当者会議にはかつて具体的な方法を考えるよう全仏一任で採択された。

提案団体 近代仏教研究会  
提案説明者 壬生照順

七月に日本で開かれる第四回アジア仏教平和者仏教徒会議には積極的な歓迎と協力をし、友好と親善をはたしたいということで了承。

四号議案「日本の仏教徒は普く全世界の仏教徒と一丸となって仏暦を実施しよう」

提案団体 日本仏教續仰会  
提案説明者 中山理女

仏誕、仏滅の年代について、学界からの報告等もつけ加えて説明があり、また専門である前田教授(愛知学院大)や助言者の佐伯先生から助言もあり議論を重ねたが、全仏教徒のコンセンサスを得るためには研究が必要であり、今後の課題として継続審議することとなった。

五号議案「四月八日を“生命を尊ぶ日”として国民の祝日に制定するよう努力しよう」

提案団体 東京都仏教連合会  
提案説明者 郡司博道

日本においては宗教的な事由を国民の祝祭日に制定するという運動はむずかしく、したがって“花まつり”でなく、釈尊の中心的なお考えである“生命尊厳”を四月八日に制定してほしいとの提案があり、すでにハワイでは四月八日がブツダーと制定されており、韓国においても仏を迎える日として制定されているなどのことから、わが国においても、この問題を今後仏教徒が努力していこうということで可決され、これを採択した。

六号議案「威力誇示や資金集めに利用される恐れのある葬儀法要等は拒否しよう」

提案団体 三重県仏教会  
提案説明者 高島広勝

前日の県仏代表者会議の話し合いを含めての提案に、青森県仏・徳島県仏など実際に“黒い法要追放”を行っている実状報告等があり、満場一致で採択した。

世界仏教徒会議日本大会を実現しよう

第二部会

部会長 井谷孝夫  
副部会長 久保埜太清  
助言者 花山勝友  
一号議案「全国檀信徒会の代表者会議を開催し、全国組織をつくらう」  
提案団体 新潟県仏教会



六議案を審議する第一部会



婦人会館で行われた第二部会

提案説明者 池田忠誠

仏教徒として、仏教を護持する組織がどうしても全国的に必要であり、仏教の発展には先ず第一にこのことが普遍されるべきであるとの意見が出され、速やかに全国の檀信徒代表者会議が結成され、開催されることを全仏当局に要望するということとで採択された。

二号講案「第十二回世界仏教徒会議日本大会を実現しよう」

提案団体 全日本仏教会

提案説明者 来馬規雄

是非ともこの大会を成功させようといふ強い発言とともに、付帯決議として仏教徒は全力をあげて募財に協力しようといふ一文を加えて全会一致で採択決議された。

れた。

佐藤寛子さんが出席

### 第三部会

部長 常磐井和子

副部長 堤ぬい子 船口暉子

助言者 若林隆光 佐藤寛子

一号講案「宗教における婦人の役割」

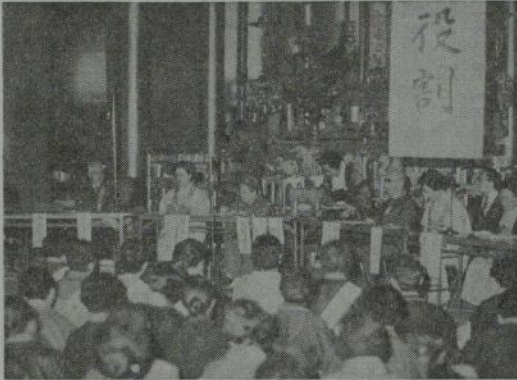
―その家庭的側面と社会的側面―

提案団体 三重県仏教会

提案説明者 武内みなえ 千草節子

徳田久美子 河村光子

提案の説明という型をとらず三重県下在住の四人の方々より「仏教の伝統に育てられて」、「おさなごの仏性」などと



「婦人の役割」に活発な意見の第三部会

### 宗派代表者懇談会



それぞれの「仏教体験」が披露され、それらの体験談を基調として、宗教教育における婦人の役割について話し合った。特に佐藤元総理夫人の佐藤寛子さんも助

言者として「仏教婦人の重要性」を発言されるなど意義ある部会となり、自らが仏法を聞いて行く事、という結論が出された。

座長 常磐井堯祺  
幹事 麻布照海

自由な話し合いであったが、当局より発表することがあるなら伺いたいとのご発言により、第十一回WF Bタイ大会の報告と、第十二回日本大会の開催要請、その後の経緯を発表したところ、加盟国・組織・大会予算などについて質問が出され、早急に準備努力するように指示があった。

出席者(順不同敬称略)  
田辺 哲崖 曹洞宗

賜春館で懇談する宗派代表者

- 長谷川靈信 念法真教
- 浅井 自香 真宗木辺派
- 阿部 本直 真言宗普通寺派
- 常磐井堯祺 真宗高田派
- 西口 公教 真言宗国分寺派
- 守中 隆璋 西山浄土宗
- 藤原 愛章 真宗出雲路派
- 神田 寛雄 浄土真宗本願寺派
- 桜井 景雄 臨済宗南禅寺派
- 芙蓉 良順 真言宗智山派
- 立部 瑞祐 真言宗御室派
- 服部 恭寿 真宗高田派
- 生駒 昌胤 法相宗
- 四宮 正音 孝道教団
- 下平 耕道 新義真言宗
- 長瀬 貴公 日蓮宗
- 梅森 香月 臨済宗妙心寺派
- 苗村 彦敬 真宗仏光寺派
- 長谷川真元 天台真盛宗
- 小沢 照禧 真言宗智山派
- 永井 日揮 本門法華宗
- 頼松 祥倫 西山浄土宗
- 栗山 良全 融通念仏宗
- 土持 良栄 頭本法華宗
- 浅井 堅教 真言宗豊山派
- 稲岡 覚順 浄土宗
- 山本 勝隆 浄土宗西山深草派

# 四月八日を国民の祝日に 七項目を決議

## 決議

- 一、われわれは、地球は有限の閉鎖された世界であることを認識し、これを大切にするとともに、この世界に仏国土を建設するための具体的目標を設定し相寄り、相扶けてこれが実現に生きぬくことを期す。
- 二、われわれは仏教の真髓を現代的に解明し、これを弘布するため、新仏教徒読本の編纂を全日本教会に提案する。
- 三、われわれは、奇形化された科学文明を是正するため「仏教と科学」に関する研究委員会を全日本仏教会に設置することを提案する。
- 四、われわれは、仏教による生涯計画を確立するため、全日本仏教会に研究委員会の設置を提案する。
- 五、われわれは、世界の仏教徒が団結して人類の危機を克服するため、世界仏教徒大会日本開催の実現を期す。
- 六、われわれは、威力誇示や資金集めに利用され、またその恐れのある雑儀法要等は拒否しよう。
- 七、われわれは、四月八日を生命を尊ぶ日として国民の祝日に制定するよう努力しよう。

右決議する。

昭和五十一年五月十七日

第二十四回全日本仏教徒会議三重大会

## 仏教による生涯計画の確立

### 宣言

本大会は「仏教で強く正しく生きぬこう」をスローガンに、各部会でそれぞれ真剣にその具体案を討議した。これは、過去三回にわたる大会で、人類が直面している危機についてその実態と原因を究明した結果を踏まえて、今こそ仏教徒は一致団結し、この危機を克服しなければならぬという決意を新にしたことによ

るものである。

仏教は二千五百年の歴史と伝統を持って今なお生き続けているし、過去のあらゆる時代にも対応してそれなりの成果を収めたことも事実である。しかし、対応することは生き残ることを意味しない。

仏教の真髓は日本において開花したと言われるが、現代人の仏教との関係には微温的であるか、無関心であるか、或はむしろ拒否することが近代人であるかの如く思われている。特に最近、仏教が人類

の危機克服に取り組もうとすることに對し、人類の退嬰、滅亡もまた諸行無常の相と觀する仏教に一体何が出来るかという批判、また仏教の出発的である中道を単なる常識的利巧さとして解し、或は仏教はあらゆる積極的活動を避けて狭い個人的な陶醉生活に逃避するのが本領であるとする曲解などを屢々耳にするのである。

われわれは、このような批判、曲解を招くこと自身、仏教徒の重大な責任であることを痛感するものである。今一度「仏教とは何か」を根原的に問い直すことが必要であろう。

仏教の本質と歴史を根本から学問的に研究しようとするとき、勿論仏教の伝承について批判されなければならない。この場合、ややもすると仏教界からの反響を招くことがあり得るが、真実を明かにすることは全一仏教にとって矢われるものよりも得ることの遙かに多いことを知るべきである。仏教に對する無関心、無視は無知から生じ、仏教に對する反発の多くは、不当に付加された夾雑物に對す

る批判である場合が多いからである。かつて、人間はよりよく生きるために自然を克服し、自然から脱却する手段として文化文明化、産業社会化を創造した。しかし今や、人間が創造した文明は生命を得た怪物の如く増大して人類を置き去りにし、深刻な危機の断崖に迫いつめている。かかる現象は、奇形化した科学が人間の非科学的機能に利用された結果によるものである。しかし、その責任の一端はわれわれ精神活動に従事する者が負わねばならないことは勿論である。

われわれはここに、激しく自己を反省し、夾雑物を洗い落して真実の姿を把握し、その奥義を体得して、仏教による生涯計画の確立によって強く正しく生きぬき、人類の危機を克服することを固く誓うものである。

右宣言する。

昭和五十一年五月十七日

第二十四回全日本仏教徒会議三重大会

## 県仏代表者会議

### “黒い法要追放”などを討議

第二十四回全仏三重大会前日の五月十五日、高田本山専修寺内の高田青少年会館会議室に、十七県仏、三十四名の代表と、全仏事務局が参集し、都道府県仏教

会代表者会議が開催された。三浦依文唱和のあと、常磐井堯祺高田派法主、鱒淵正浩全仏事務局総長が挨拶、栗本俊道師（東京都仏会長）を議長に選出して議事に入った。

まず明日より開かれる第二十四回全仏三重大会について担当者より説明報告のあと、三重県仏教会より「暴力団組織による“黒い法要、雑儀”は組の資金源になっていることや、周辺住民に恐怖感を生

与えることから世論も厳しくなっており、これら「黒い法要の追放」を決議してほしい」との提案がなされた。これに対し大阪府仏よりすでに「黒い法要追放」の府下全寺院に申し合せてある旨の発表等があったが、「花屋や葬儀屋の協力が必要」・「組葬の判断が難かしい」・「檀家の場合はことわりにくい」などの意見が出て、結局代表者会議においては「暴力団の資金源に利用される組葬儀、法要は拒否する」との「申し合せ」がなされた。

次に「第十二回WFB日本開催について」の討議がなされ、資金等の難かしい面もあるが、各県仏としても積極的に協力していくことと了承された。



大会前日開かれた都道府県仏教会代表者会議

その他各県仏の事業報告、事業計画やブロックの問題などが話しあわれ閉会の後、なごやかに懇親会を開いた。  
(出席県仏) 神奈川、京都、千葉、静岡

# 全仏理事会ひらく

## 50年度歳入歳出など承認

五月一日、東京都西浅草の徳本寺会室にて全日本仏教会の理事会が開催され田辺哲重理事長挨拶のあと、同師を議長に、議事録署名委員に長谷川霊信(念法真教)・貝山宣泰(神奈川県仏)の両師を選出したあと、上程された議案にそって審議された。

議案第一号「理事増員について」

新加盟した仏教伝道協会の負担額決定に伴い、理事団体と認め、同会評議員の沼田恵範の理事就任を満場一致で承認。

議案第二号「昭和五十年年度事業報告について」

庶務部長より上程し説明、満場一致にて原案通り承認。

議案第三号「昭和五十年年度歳入歳出決算について」

財務部長より上程し説明、植松監事より監査会の報告があり、本件を承認。

第案第四号「関西事務局職員人事について」

長野、埼玉、茨城、青森、岐阜、群馬、徳島、大阪、東京、山形、愛知、三重、滋賀、岡山、栃木

輪番により同事務局の知恩院移転に伴い、事務総長に白幡憲佑の就任、以下部長、主事十名の就任を、報告通り承認。  
報告事項一「第二十四回全日本仏教会三重大会について」  
事務局より同大会の事務進行状況の報告。

報告事項二「第二十五回全日本仏教会開催地について」

埼玉県仏が担当して開催すると報告。  
報告事項三「第十二回世界仏教徒会議日本開催について」

準備世話人会のマスタープランを報告し、更に同世話人会を順次拡大強化して開催する方向でプランを練り上げていくことと了承。

(出席者) 田辺哲重、野村宗春、栗本俊道、貝山宣泰、川口良信、長谷川霊信、立部瑞祐、山本杉、奥田行朗、小倉日宝、別所弘因(代)、熊野竜夫(代)

委任状提出者 十三名

### 関西事務局人事

- 事務局長 白幡憲佑 浄土宗
- 組織部長 能邨英士 大谷派
- 国際部長 後藤純一 妙心寺派
- 文化部長 北島経昭 本願寺派
- 教化部長 斎隆 智山派
- 審議部長 山家恵誠 京都府仏
- 総務部長 梶原隆也 浄土宗
- 主事 三上大成 本願寺派
- 越岡耀瑞 大谷派
- 藤野俊雄 浄土宗
- 井上承爾 浄土宗

(事務局) 京都市東山区林下町 浄土宗 徳本山知恩院内

### 哀悼

大津權堂師(臨濟宗相国寺派管長) 去る五月十八日、相国寺山内・大光明寺で脳いっ血のため遷化。八十歳。  
昭和三十三年に同派管長に就任、禪を求めてくる青年大衆に広く門戸を開き、卒先指導にあたった。

### 掲示板

▲茨城県仏教会は役員改選が行なわれた。会長・大越孝仁(法蔵院)、副会長・牧田実栄(華蔵院)、秋元義雄(神電寺) 小林栄雄(真浄寺)、中村純崇(薬王院) ▲日本仏教顕仰会では、釈尊降誕花まつり記念として「公開討論会」を開催、武藤義一氏の司会により、ジャーナリストと仏教関係者が討論した。

# バングラ孤児院完成

国際専門委員

松 涛 弘 道

今回、全日本仏教会の要請を受け、日本側の拠金によって落成したダッカ市のバンマラジカ孤児院の落慶式に出席のため五日間にわたりバングラディッシュへ出張したので以下、その報告を概略させて頂きます。

五月十一日午後零時半、国際文化局石川主事の見送りを受けて日本航空四六三便で羽田を発ち、途中バンコックでインド航空三〇五便に乗りつき、午後九時（現地時間）にカルカッタ空港着。近く



完成したバンマラジカ仏教孤児院

のエアポート・ホテルに一泊ののち翌十二日午前十一時発のバングラディッシュ・ビーマン航空四九二便でカルカッタから目的地のダッカ空港に午後一時到着。スッタナンダ比丘、バルア事務局長、孤児代表の迎えをうけて午後二時孤児院に着き、孤児七十余名の合唱による盛大な歓迎をうけ、直ちに院内を視察見学した。午後四時すぎ日本大使館を表敬訪問ののち、孤児院へ帰り、夕食後、院内関係者と懇談。急ごしらえの部屋の整備がととのわず、深夜まで待機、やっと木造りのベットが出来上って、もぐりこむ。外ではまだ明日の落慶式に間に合わせるための突貫工事が続けられてなかなか騒音で寝つかれない。

### 盛大だった落慶式典

五月十三日午後五時に起床し、朝の礼拝及び食事ののち、午前十時からの屋外での釈迦立像定礎式にのぞみ院長ヒイス・タナナダ長老と共に参入れを行う。院内仏堂での定礎報告礼拝ののち、チタゴン郊外の孤児院分院から馳けつけた比丘たちとともに昼食。午後四時からは院内ホールにはちきれんばかりの約千人あまりの参会者の見守る中で、バングラディッシュ政府大統領特別顧問ハールダー氏や、最高裁検事、タイ国大使夫妻、日本国大

使館荒木二等書記官等の列席のもとに落慶式が行われた。小生は全日仏からのメッセージを日英両語で披露し、今回、持参した米貨倉千が及び土産品を壇上のヒス・タナナダ長老に手交し、来会者から拍手がさいされた。この落慶式の模様は現地テレビ及び新聞、ラジオ等でも大々的に報道され、大いに日本の気を吐いた。当夜はおそくまで色とりどりの電球で飾られた屋外で演芸余興もあり、深夜まで賑わった。たまたまダッカ大学で教鞭をとる東京外語大の奈良教授の来訪をうけ、現地事情の説明をうけた。

五月十四日、市内のイスラム・ヒンズー寺院等を見学し、午後には日本大使館に向いて、吉岡大使に落慶式出席のお礼と帰国の挨拶をすませ、多くの孤児院関係者の見送りをうけて、午後六時ダッカ空港発のタイ航空三〇四便でバンコクへ向い、市内ラジャールホテルに旅装をとく。

五月十五日、近くの世界仏教徒連盟本部を表敬訪問、英文仏教誌「ヤング・イースト」最近号を届け、翌十六日に日本航空六一八便で無事に任をはたして羽田に帰着した。

### 日本の援助に感謝

現地の孤児院を辞去する際に、同関係者一同から全日本仏教会を通じての今までの物心両面の援助に対して心からなる感謝とお礼を述べるとともに、引続きの援助を期待し、出来得ればそれによって印刷機械を購入して印刷所を設置し、外部からの注文を受けて、自給自足と独立

採算のとれる孤児院にしたいとの要望を受けて辞去した。

### 事務総局録事（五月）

一日 理事会

藤まつり出席（本願寺）

局内会議

宗連理事会

十五日 都道府県仏教会代表者会議

十六日 第24回全仏三重大会

十七日 //

二十六日 醍醐山開創千百年慶讃出席

文化会議講師打ち合せ

二十七日 局内会議

## 寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 浜田商店

東京都台東区寿2-10-9（地下鉄田原町駅前）

電話 代表 (481) 4965

# 祈りの中に美を秘めた

## 御舍利佛

(新案特許第153494号)

此の御舍利佛は、御佛のお側に召された、御魂を、目のあたりに具現化し、永遠の生命の輝きを、ねんごろに供養せんと意途により考案されたものであります。故人の御舍利を台座に納め、自宅の佛壇に、或は寺院のお位牌堂に又は、お墓のアパート等に安置致します。宇宙の子である人間は、現世の生活をつづけている者も、その生活を終った者も、大自然の神秘の中に、共に生きつづけている事を知りませう。諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜・佛に帰依し、佛を供養致しませう。

御舍利佛の一例をとりあげました



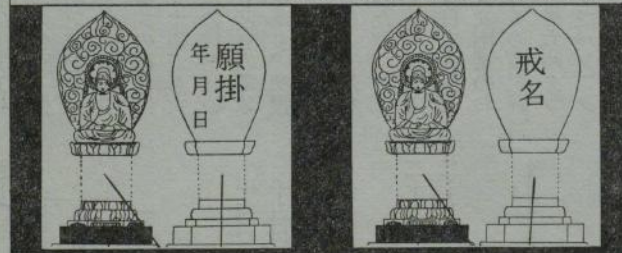
この他、御希望により、型は、どのようにでもお造り出します。価格 12,000円~23,500円  
5本以上のご注文の場合は単価割引させていただきます



販売方法 この御舍利佛は市販されておられません。お寺さまから直接檀信徒様におわけいただくようお願いしております。

### ご利用のしかた

- ①礼拝用の場合 ●そのまま上下貼り合せて下さい。
- ②納骨の場合 ●御舍利は台座の中に収納されます。  
●家紋、俗名が記入出来ます。
- ③願文納経の場合 ●願文を収納しましたら納骨の場合と同様、上下貼り合せて下さい。  
●願い主の御名前を記入します。



巾	奥行	高さ	
各種11cm	各種8cm	(イ) 25cm	(ロ) 31cm
		(ハ) 33cm	(ニ) 25cm

### 収骨佛の特長

- (1)墓地不足を解消し、小さな場所でも容易に安置する事が出来ます。
- (2)御家族の遺骨が収骨(納骨)されますので仏(寺)と自然に結ばれ信仰心がいっそう深まる事でしょう。
- (3)檀信徒様の御本尊としても広く捧まれます。
- (4)純金箔仕上なので、多く並ぶ事により、安置場所に荘厳さと明るさ(清潔)を増します。

総発売元 〒419-02



株式会社 東浩商事

本社 静岡県富士市久沢433の1 TEL 0545706013代

製造元 林大佛堂

〒910 福井県福井市東別院前角 TEL 0776230711

昭和五十一年六月一日発行  
六月号 第二一八号

編集人 発行人

来鯉 馬淵 規正 雄浩

発行所 財団法人

全日本仏教会

東京都台東区西浅草一ノ五ノ五(東京本願寺内)  
電話 〇三(八四三)六三三四一、三